

言葉を紡いで相手に伝えよう ～世の中は優しくできている



人に何か自分の思いを伝える手段としては、まずは「言葉」で伝える、それから嬉しい・悲しいなどの「表情」で伝える。そして、受けて入れている・拒否しているなどの「態度・ボディランゲージ」等で示すのが代表的な例として挙げられると思います。

その中でも特に「言葉」は圧倒的に多くのことを伝える手段であって、自分の思いを相手に伝えるには「言葉」無くしてはあり得ないですね。もう、「言葉」が何と言っても一番です。ただ、「言葉」というものはどうしても制限があって自分の思いを余さず全て伝えることはできないものです。何かまどろっこしさを感じますが…。テレパシーか何かで、自分の思っていることをイッキに相手に伝えることができればいいのですが、それができるはずもありません。ですから、「自分の思い」「大切なこと」は、やはり何とか「言葉」を駆使して伝えていくしかありませんね。

ただ皆さん、「言葉」を伝えるときに、こういう事を言っているのだからか遠慮がちになってしまったり、また言っているのだからかと迷っているうちに言うタイミングを逃してしまったりと、こういうことをよくやっつけてしまいませんか。

そこで今回は、私の経験も踏まえた上で、「言葉」の伝え方の一例についてお届けしたいと思います。

思いを伝えられなくなる寸前まで行った

私には、もうこれからは、自分の思いを誰にも伝えられなくなるという寸前というのがありました。それは29歳の時で、まだ独身のときでした。ある仕事で鹿児島へ出張中に、劇症肝炎という病気を発病しまして、状態が酷く、イッキに危篤状態まで行ってしまいました。家族はじめ関係者は全員鹿児島に呼ばれ、全く予断を許さない状態だったのです。

10日間くらい、すごい高熱が続き生死の間をさまよってまし

た。意識は多少あるのですが、ほぼ朦朧とした状態です。三途の川の夢も二晩続けて見たりもしました。そして、いろいろ経緯はありましたが、結局、その時の主治医の先生が今まで日本で前例は無いけれど思いついた治療方法があると言って、その方法を施していただき、それがピタリと当たって九死に一生を得ることができました。助かる可能性は数パーセントと言われていたのが、奇跡的に助かったのです。そしてお蔭様で今も元気に仕事をさせていただいております。もう、この一連のことには、今も感謝以外の何ものもありません！ありがたいことです！

そしてじつは、その危篤状態で意識が朦朧としていた中ですっと思っていたことがあったのです。

自分で後で考えてもビックリしたのですが、それは「もし良くなってカラダが回復すれば、あれをやりたいこれをやりたい」というような類のことでは全くありませんでした。

じつはずっと思っていたのは、「両親に今までの感謝の言葉を伝えていなかった」、「お世話になったあの人にお礼の言葉を伝えていなかった」、「今まで関わりのあった人にありがとうを言い足りてなかった」、「謝らないといけない人にごめんなさいを伝えてなかった」、こんな風なことばかりが頭の中をグルグルと駆け巡っていました。

これにはちょっとビックリしてしまいました。人は死に直面すると、こういうことを考えるものなのかもしれません。そしてひょっとしたら、それがとても大切なことなのかもしれません。それが生きるということなのかもしれません。生きるということは、いろいろなことを経験して、人に感謝の気持ちを伝えることとか、人にありがとうを伝えることとか、その他のいろいろな思いを伝えるということなのかもしれません。

私の場合は、幸い何とか生き延びることができましたが、もしあそこで命を落としていたら、もう自分の言葉を誰にも伝えることはできなかったのです。そこから先、大切な人に自分の思いを伝えることは全くできなかったのです。

そうなのです、誰もがひょっとしたら明日突然、何も思いを伝えることができなくなる可能性もあるのです。

ですから、自分の誰かに伝えたい思いは、特に伝えたい大切な思いは、言葉で伝えられる時になるべく伝えておきましょう。特に、自分が大切に思う大事な相手にはしかりなのです。「言葉」を伝えるタイミングは迷ったり、戸惑ったりすることもあるでしょうが、なるべくそうしておこうじゃないですか…後悔を残さないためにも！

言葉を紡ぐ

とは言っても、普段、心では思っている、言うのが照れくさかったり、いちいち言わなくてもわかってるだろうと考えてしまったり、そのままにしてしまうことは結構多いですね。

また言おう言おうと思っても、タイミングがずれてしまったり、結局そのままになってしまったり…。こういうこともままありますね。普段は、だいたいそういうものです。

ですから、全部が全部のことを全て伝えようとしなくてもいいのですが、

“自分がどうしても伝えておきたいこと”、“どうしても感謝の気持ちを表しておきたいこと”、“どうしてもありがとうと言っておきたいこと”等は言葉にできて伝えられる時には、ちゃんと伝えておこうではありませんか。

それも自分の真摯なまっすぐな思いを、言葉を紡いで…。自分の真摯な思い、真剣な思いを、なるべく美しくストレートに言葉を紡いで相手に伝えてみましょう。

その思い、その一生懸命に自分が紡いだ言葉は相手にストレートに伝わり、相手も素直に受け入れてくれるはず。その思いを拒絶するような人はまずいないはず。そんな世の中は無いです。

世の中は優しくできているはずなのです。

ひょっとしたら、私たちは、自分たちの思いをこういう風に伝

えたり、いろいろなやり取りをしながら、みんなで作って行っているのかもしれない。

素晴らしくて面白いことだと思います！

伝えたいことはすぐ言葉で伝える

先程から言ってますように、「大切な相手に、今、伝えたい大切なことは言葉にして伝えておきましょう」。

ひょっとして、明日、伝えられなくなるかもしれないのですから。(伝えるタイミングというはあるでしょうが)

そして「自分の思い」が真摯に真剣に、そしてなるべく美しく伝わるように、ちゃんと「言葉」を紡いで相手に伝えましょう。

あなたの「紡いだ言葉」は、もしあなたがこの世にいなかったとしても、ずっと相手の心には残り続けるのですから！

さあ、今日からぜひやってみましょうよ！

生きることが、より楽しく面白くなるかもしれません！



ZaiSapo
ザイサポ

(株)財務サポートコンサルティング
代表取締役

片上 智英 (カタカミ トモヒデア)

TEL 050-1523-1621
E-mail zaisapo55@ybb.ne.jp
HP <http://zaisapo.jp>

プロフィール

国立大学を卒業後、出版・広告関係の企業へ就職。主に営業・マーケティングを担当。その後、出版販売の会社へ転職。拠点マネージャーとして社員採用・育成指導等、拠点運営を20年余り担当。後、株財務サポートコンサルティングを設立、現在に至る。医療関係・美容関係・飲食関係を中心にコンサルティング実績多数。また、大手通販会社と提携し、通販システム・ノウハウ提供のコンサルティングも現在展開中。